

「新潟支社の現業機関における柔軟な働き方の実現について」提案団体交渉 新潟・長岡営業統括センター新設を提案

新潟地本は4月4日に団体交渉を行い、支社側より「新潟支社の現業機関における柔軟な働き方の実現について」の提案を受けました。

これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現するために、長岡営業統括センター、新潟営業統括センターを新設するとしています。

施策実施の目的については、1人の社員が複数の業務を担い、新たな価値観の創造やキャリアアップ、より生産性の高い業務執行体制を実現することを念頭においているとしました。

また、新たな取り組みを通じて収益が上がることも期待するが、効率的な運用や収入・収益のアップが目的ではないとしました。社員の成長意欲との関係を実質と支社側は、特定の箇所や担務に縛られずエリア内で交流すること

で目に見えない効果が期待でき、社員の視野が広がったり、キャリアプランが描きやすくなったりするとの考えを示しました。営業統括センターの発足を同一の日ではない理由を質しました。

長岡営業統括センターは冬期前に体制を整えるため今年10月に発足、新潟営業統括センターは6月の新潟駅全面高架化への対応、設備系の8技術センターや2運輸区との調整などがあるため来年3月発足とするとしています。

長岡営業統括センターは長岡駅(地区センターを含む)・越後湯沢駅(ガリラヤ駅を含む)・浦佐駅・柏崎駅・上越妙高駅・十日町駅・燕三条駅(吉田駅を含む)・新潟営業統括センター(新潟駅)・小国駅・新発田駅・村上駅・新津駅・上沼垂信号場を統合して発足するとしています。

広範囲に点在する職場が統合される点について指摘すると支社側は、発足時に1人が全駅対応は現実的ではなく、現時点の駅を基点にプラス1駅、2駅の融合となるとの考えを示しました。

また、吉田駅と上越妙高駅のような遠距離間の融合は現実的ではないとの認識を示し、長岡駅と吉田駅、柏崎駅と上越妙高駅の様な形でカバーをして、単独の駅は作らない様にするとしました。

新入社員のみなさん! 入社おめでとうございます!

初めての仕事や職場に対する不安や悩みはありませんか?

私たちJR東日本労働組合(東日本ユニオン)に気軽に相談してください!



東日本ユニオンで私たちとともに働きやすい職場を創りましょう!

他系統との連携について質すと、営業統括センターにおける企画業務を運輸区などが共に担うことになることになりました。出勤箇所、ロッカーの配置、「室」の設置や規模など詳細は現在検討中であるとしていました。発足日や具体的な体制も未定であることについて



支社側は、今回の提案はエリア、時期、職場を示し立ち上げの機運を盛り上げるものであり、完成形は固まっていないことか



ら、走りながらマイナーチェンジをし、ブラッシュアップを行うとしました。庄内統括センターの設置を振り返ると、発足まで1カ月を切っても社員が何処に出勤するのかわからない状況だったことを指摘しました。

支社側は、特に長岡営業統括センターについては半年もないことから、社員に不安を抱かせないためにも、発足に向けて検討を推進する体制の整備を行っていきとしました。

上中越支部は3月20日も職場の多くの声を結集し、労働組合の必要性を訴えながら改善していくことを通じて組織の強化・拡大につなげていくことが私たちの課題です。労働組合として組織の垣根を越えて、働きがいのある職場を目指すと共に、組合員・社員と家族の幸福を実現させるため、上中越支部は今後も邁進していきます。

今年1月12日、信越本線では柿崎〜柏崎間の終日運休に伴い、柏崎〜長岡間での折り返し運転が行われました。

この際に、E129系2両編成の快速3371M列車をワンマン列車として運行した事象が発生しました。

E129系にはワンマン運転の快速3371M列車をワンマン列車として運行した事象が発生しました。

問題があるとの認識せざるを得ません。新潟地本は3月18日、背後要因を明らかにし、再発防止策を講じた安全・安定輸送とサービスの提供の確立を求め、申15号「ワンマン運転の快速列車を異常時にワンマン運転で運行したこと」に対する申し入れを提出しました。

■申15号 申し入れ項目
1. ワンマン運転の定義を明らかにすること。
2. ワンマンNFBを扱わずにワンマン運転が出来ると判断した根拠を明らかにすること。
3. ワンマンドアスイッチを扱わず、車掌スイッチによりドア扱いを行うことにより発生するリスク

に対する考え方を明らかにすること。
4. E129系車両においてワンマン機能を扱ったワンマン運転が出来ない場合は運休、または車掌乗務とすること。
5. 今後、このような取り扱いを行わないために、文章等による記載と周知を行うこと。

「ワンマンNFBを扱わずワンマン運転」
支社側の認識と対策を求める
申15号「ワンマン運転の快速列車を異常時にワンマン運転で運行したこと」に対する申し入れ

ン快速のROM設定がなくなると、ワンマン機器を扱うことができないため、停車駅では車掌スイッチ扱いによるお客さまの乗降扱いを余儀なくされました。

運転士が運転台を離れたドア扱いを行うことや、自動放送が使用できないことなど、安全やお客さまへのサービスの視点からも問題があるとの認識せざるを得ません。

上中越支部第7回定期委員会
組合員・家族の幸福実現目指し
たたかいを創り出すことを確認!

上中越支部投稿)